

ハージュ橋

Bridges of the World

イラン・エスファハーン



イラン・2006年発行

イランには「エスファハーンは世界の半分」という言葉があります。エスファハーンは16世紀末にサファビー朝の首都となり、その時代に造られたエマーム広場などの共用空間や多彩な建築群を称えた言葉だと思われませんが、この町の美しさには町の中心部を流れるザーヤンデ川が織り成す風景も寄与していると言えるでしょう。

そこには17世紀以前にも遡る古い歴史を持つ5本の橋が今も残っていますが、中でもハージュ橋はエスファハーンの橋の華と言ってもいいでしょう。人を対岸へ渡すという機能の他に、水を供給する堰、水上の美しい建築、そして川の上の憩いの場としての役割も果たしています。完成は1655年、アッバス2世の時代で、全長は133m、21の流水路があります。橋脚の部分が非常に大きく、その間に堰板がはめ込まれて上流側の水位が調整され、最大で2.5mの水位差が生じるように設計されています。溝の幅は大半が3.9mですが、部分的に狭くなっていて、流れの速度を変えることによって堰板に発生する共振を避けるように工夫したと説明されています。こうして上流側

に貯留された水によって市域の地下水位を保ち、取水された水が市域を潤しています。ただし、季節によっては涸れ川になることもあります。

流水路の上には板が張られて人が通行できるようになっていて、昼間は橋の見学に訪れた観光客が歩き、夕暮れ時には大勢の地元の人が涼を求めてそぞろ歩きを楽しみ、下流側の石段に腰を下ろして思い思いに時を過ごしています。

橋本体はレンガ造の尖頭アーチが連ねられ、その上にもスパンの小さなアーチ列があって2段のアーチ構造のように見えます。上の段は人道橋として南北市街地を結ぶ重要な役割を果たしています。両側の壁が通行者を強い日差しや風雨から守っています。その外側には小さく区画されたバルコニーが造られていて、そこから川の風景を眺めることができるようになっています。また、橋の中央には大きなアルコーブがあって、その部屋の壁や天井には花や幾何学模様の細密な装飾があり、アーチ部分の多色タイルがこの橋の美しさを際立たせています。



撮影：松村 博